# 化学・繊維

## 1．評価対象企業（20 社）

**クラレ、旭化成、レゾナック・ホールディングス、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、日本酸素ホールディングス、日本触媒（新規）、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、三菱ケミカルグループ、ダイセル、積水化学工業、UBE、日本ペイントホールディングス、帝人、東レ**

（証券コード協議会銘柄コード順）

## 2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

| 評価分野 | 下記本文中の略称 | 評価<br>項目（注）数 | 配点 |
|---|---|---|---|
| ①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス | **経営陣の IR 姿勢等** | 4 | 31 |
| ②説明会、インタビュー、説明資料等における開示 | **説明会等** | 4 | 21 |
| ③フェア・ディスクロージャー | **フェア・ディスクロージャー** | 2 | 5 |
| ④ESG に関連する情報の開示 | **ESG 関連** | 3 | 30 |
| ⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示 | **自主的情報開示** | 2 | 13 |
| 計 | | 15 | 100 |

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 28 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

## 3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、新規に企業を加えたほか、一部の項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 74.1 点（昨年度 74.6 点）、総合評価点の標準偏差は 8.7 点（昨年度 7.2 点）となった。

② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%（昨年度 73%）、**説明会等**が 73%（昨年度 74%）、**フェア・ディスクロージャー**が 86%（昨年度 87%）、**ESG 関連**が 74%（昨年度 76%）、**自主的情報開示**が 72%（昨年度 71%）となった。

③ 評価項目（全 15 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上となったのは、次の**説明会等**の中の 1 項目(a)および**フェア・ディスクロージャー**の 2 項目(b)(c)であった。

(a)「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 82%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 5 社・90%台 6 社・100% 1 社）

(b)「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 84%〔昨年度 82%〕）（得点率：70%

台 3 社・80%台 14 社・90%台 3 社）

(c) 「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 90%〔昨年度 94%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 1 社・80%台 2 社・90%台 15 社）

④ **ESG 関連**の 3 項目は、次のとおりとなり、平均得点率は昨年度に比べてほぼ同水準となった。

(a) 「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」（平均得点率 76%〔昨年度 78%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 4 社・70%台 9 社・80%台 6 社）

(b) 「社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」（平均得点率 73%〔昨年度 75%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 6 社・70%台 10 社・80%台 3 社）

(c) 「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか」（平均得点率 74%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 4 社・70%台 12 社・80%台 2 社・90%台 1 社）

(2) **上位３企業の評価概要**

**<u>第 1 位　三井化学（ディスクロージャー優良企業〔6 回連続 10 回目〕、総合評価点 87.6 点〔昨年度比＋0.3 点〕）</u>**

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉90%）、**ESG 関連**（86%）が第 1 位、**説明会等**が第 2 位（88%）、**フェア･ディスクロージャー**（94%）、**自主的情報開示**（83%）が同得点第 2 位となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣による IR 活動への積極的な関与や、社長・CFO との対話機会の充実、構造改革を含む経営方針や中長期ビジョンの継続的かつ明確な情報発信に加え、新経営体制への期待や全社的に IR へ取り組む姿勢を評価する声が寄せられた。また、ESG を中期経営計画と一体的に位置付け、関連説明会の開催や Blue Value／Rose Value 指標、環境配慮製品比率、従業員エンゲージメントなどの定量的な情報開示を積極的に進めることで、ESG への取組を投資家に分かりやすく伝えている点を評価する声があった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は第 2 位となった。また、「会社にとって都合の悪い情報（不祥事含む）、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、トップマネジメントと IR 部門の距離が近く、投資家に理解してもらうための姿勢のもとで十分かつ継続性のある情報開示が行われているほか、定量情報も充実しており、業績変動要因や長期戦略などについて有意義で質の高いディスカッションができる点や、IR イベントを積極的に開催している点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）が最も高い評価となった。また、「四半期情報開示」は同得点第 2 位に、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、製品別・子会社別データなど詳細な開示が充実しているほか、決算説明会に加えて経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向から中長期の方向性まで丁寧に説明する姿勢を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「速やかな情報提供」が同得点第 1 位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、資料の見やすさに加え、質疑応答の要旨集や英文資料も適時かつ分かりやすく開示されていることを評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「環境（E）に関連する項目」および「社会（S）に関連する項目」が共に最も高い評価となったほか、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が第 2 位となった。これらに関連して、長期経営計画「VISION 2030」の策定を通じてマテリアリティを見直し、事業活動とサステナビリティを一体的に位置付けるとともに、非財務目標の定量化や KPI の設定、進捗・実績の継続的な開示に加え、資本政策や財務戦略についても明確に示している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書

において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 2 位となった。「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」も第 3 位となった。充実していたイベントとして、名古屋工場見学会や事業説明会を挙げる声があった。また、統合報告書の内容を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

**第 2 位　旭化成　（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 85.8 点〔昨年度比＋3.8 点〕、昨年度第 3 位〔一昨年度第 3 位〕）**

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**（96%）、**自主的情報開示**（85%）が第 1 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（87%）、**説明会等**（86%）、**ESG 関連**（83%）が第 3 位となった。昨年度に比べて、**経営陣の IR 姿勢等**の得点率が大きく改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値や株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、経営方針に対する社長の明確な説明や、CEO・CFO を含む経営陣の積極的な IR 活動と充実した対話に加え、自社のバリュエーション課題を分析し、市場との対話を通じて改善を図ろうとする姿勢など、企業価値向上に向けた意識の高さを評価する声が寄せられた。「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、統合報告書やトップミーティング、関連説明会などを通じて知的財産を含む ESG に関する説明の充実を図るとともに、E・S・G それぞれの重要性を認識し積極的な情報発信を行っている点や、中期経営計画と連動した取組内容を分かりやすく示している点を評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能、基本スタンス」（2 項目計）が同得点第 3 位となった。これらに関連して、十分な情報開示に加え、各セグメント・製品に関する情報や Data sheet の発行など開示内容が充実・改善しており、トップマネジメントと IR 部門の距離の近さや社内の風通しの良さを背景に、必要な情報について円滑なコミュニケーションと適切な議論が可能であること、また不明点へのフォローアップや情報開示の継続性への配慮がなされている点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）が第 3 位となったほか、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」は同得点第 3 位に、「四半期情報開示」は同得点第 5 位となった。これらに関連して、ファクトシートの充実や IR 担当者の高い説明力により、事業内容や業績への理解が深まる開示が行われている点を評価する声が寄せられた。なお、説明会資料における情報量の更なる充実や、海外住宅事業およびヘルスケア事業のリスク、シナジー、事業戦略に関する開示の拡充を期待する声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は最も高い評価となったほか、「速やかな情報提供」も同得点第 1 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会の要旨を質疑応答も含めて日英両言語で遅滞なく提供し、英訳のクオリティも高いことに加え、買収や大型投資などの重要な意思決定の直後にはハイブリッド形式で説明会を開催するなど、迅速かつ公平な情報開示を重視する姿勢を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「環境（E）に関連する項目」および「社会（S）に関連する項目」が共に第 2 位となったほか、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が第 3 位となった。これらに関連して、無形資産と企業価値の関係について熱心に説明しているほか、GRI サステナビリティ・レポーティング・スタンダードを参照した情報開示の標準化を進め、事業を通じた環境・社会への貢献や事業活動に伴う負荷低減に関する定量目標の設定、環境関連データをはじめとする ESG 関連データの積極的な開示を行っている点を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」が最も高い評価となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 2 位となった。充実していたイベントとして、重点成長事業説明会を挙げる声が多く寄せら

れた。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

**第 3 位　日産化学（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 85.2 点〔昨年度比＋1.7 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）**

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（91%）、**ESG 関連**が第 2 位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 2 位（94%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（85%）、**自主的情報開示**が第 7 位（76%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**を除く 4 項目において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、実績・見通しに関する数値開示や説明会資料の内容が充実しているほか、セグメント別・製品別の詳細な情報提供、データ開示の継続性への配慮、さらには投資家の関心事項を踏まえた情報開示姿勢を評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が第 4 位となった。これらに関連して、CFO を中心に経営陣が決算説明会や IR 取材へ継続的に関与し、開示内容の充実や IR に対する高い意識がうかがえる点を評価する声が寄せられた。なお、持続的な成長のための研究開発力強化、新製品売上やパイプラインに関する開示の強化を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」および「四半期情報開示」がいずれも最も高い評価となったほか、「インタビューにおける補足説明が十分であること」も同得点第 2 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、定量情報や補足資料、会社概要資料などの開示内容が非常に充実しているほか、IR 担当者の説明力が高く、取材を通じて有用な情報が得られる点を評価する声があった。なお、新製品売上や動物薬原体の状況に関する開示のさらなる充実を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「速やかな情報提供」が同得点第 1 位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、IR 全資料の英文対応を評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が最も高い評価となり、90%以上の得点率であった。これに関連して、ROE 向上や株主還元に関する方針が一貫しており、資本政策や株主還元策について分かりやすく開示している点を評価する声があった。また、「環境（E）に関連する項目」および「社会（S）に関連する項目」は共に第 5 位となった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 6 位となった。「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」は同得点第 7 位となった。充実していたイベントとして、農業化学品説明会を挙げる声が多く寄せられた。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

(3)　**上記以外の企業についての特記事項**

○ **デンカ　（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 76.7 点〔昨年度比＋3.0 点、一昨年度比＋8.7 点〕、第 6 位〔昨年度第 11 位、一昨年度第 15 位〕）**

① 同社は、**説明会等**が第 4 位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 5 位（88%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（77%）、**ESG 関連**が第 11 位（73%）、**自主的情報開示**が第 15 位（69%）となった。昨年度に比べて、**自主的情報開示**を除く 4 分野において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」（2 項目計）は得点率が大きく改善し、同

得点第 3 位（昨年度同得点第 4 位）となった。これに関連して、情報開示が充実しているほか、IR 部門が投資家の理解促進を意識した情報提供や情報収集に努め、説明力にも優れており、売上高や利益の方向性について有益なディスカッションができる点や、セグメント別・製品別の詳細な情報開示を評価する声が寄せられた。なお、米 DPE、AI および電力インフラ関連製品に関する情報提供のさらなる充実を望む声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）は第 11 位（昨年度第 17 位）になり、共に昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これらに関連して、社長が年 2 回の説明会やセルサイド向けスモールミーティングに参加するなど、経営陣が IR 活動に積極的に関与し、経営の目指す方向性を分かりやすく発信している点を評価する声が寄せられた。なお、経営層による積極的な IR への関与の継続・定着を望む声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」が第 2 位、「四半期情報開示」は同得点第 2 位となった。「説明会、インタビューにおける開示」2 項目のうち「決算説明会における会社側の説明が十分であること」は第 4 位（昨年度同得点第 7 位）となり、得点率が大きく改善した。これらに関連して、IR 部門の説明力の高さに加え、インタビューや取材を通じて得られる情報の有用性を評価する声が寄せられた。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 4 位（昨年度同得点第 12 位）となり、得点率が大きく改善した。「速やかな情報提供」は 90%以上の得点率となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が同得点第 9 位（昨年度同得点第 17 位）、「環境（E）に関連する項目」が第 11 位（昨年度同得点第 16 位）となり、共に昨年度に比べて得点率が改善した。

⑥　**自主的情報開示**の「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 10 位（昨年度第 17 位）となり、得点率が改善した。充実していたイベントとして、糸魚川青海工場見学会を挙げる声が寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以　上

# 2026年度 ディスクロージャー評価比較総括表 （化学・繊維）

（単位:点）

| 順位 | 評価項目 / 評価対象企業 | 総合評価（100点） | 1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 31点） | | 2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 21点） | | 3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点） | | 4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 30点） | | 5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 13点） | | 前回順位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 評価点 | 順位 | 評価点 | 順位 | 評価点 | 順位 | 評価点 | 順位 | 評価点 | 順位 | |
| 1 | 4183　三井化学 | 87.6 | 27.8 | 1 | 18.5 | 2 | 4.7 | 2 | 25.8 | 1 | 10.8 | 2 | 1 |
| 2 | 3407　旭化成 | 85.8 | 26.9 | 2 | 18.1 | 3 | 4.8 | 1 | 24.9 | 3 | 11.1 | 1 | 3 |
| 3 | 4021　日産化学 | 85.2 | 26.5 | 3 | 19.1 | 1 | 4.7 | 2 | 25.0 | 2 | 9.9 | 6 | 2 |
| 4 | 4005　住友化学 | 81.5 | 25.4 | 4 | 16.9 | 5 | 4.5 | 4 | 23.9 | 4 | 10.8 | 2 | 4 |
| 5 | 3402　東レ | 78.2 | 24.5 | 5 | 16.1 | 7 | 4.4 | 5 | 23.1 | 6 | 10.1 | 4 | 8 |
| 6 | 4061　デンカ | 76.7 | 24.0 | 6 | 17.5 | 4 | 4.4 | 5 | 21.8 | 11 | 9.0 | 15 | 11 |
| 6 | 4204　積水化学工業 | 76.7 | 23.2 | 9 | 16.5 | 6 | 4.3 | 10 | 23.6 | 5 | 9.1 | 11 | 5 |
| 8 | 4188　三菱ケミカルグループ | 75.7 | 23.4 | 8 | 15.0 | 10 | 4.4 | 5 | 22.9 | 7 | 10.0 | 5 | 6 |
| 9 | 4208　ＵＢＥ | 74.1 | 23.6 | 7 | 14.6 | 12 | 4.2 | 11 | 22.5 | 8 | 9.2 | 10 | 7 |
| 10 | 4182　三菱瓦斯化学 | 73.2 | 22.1 | 12 | 15.5 | 8 | 4.2 | 11 | 22.1 | 9 | 9.3 | 8 | 9 |
| 11 | 4004　レゾナック・ホールディングス | 73.1 | 22.9 | 10 | 15.0 | 10 | 4.1 | 15 | 22.0 | 10 | 9.1 | 11 | 10 |
| 12 | 4612　日本ペイントホールディングス | 71.9 | 22.5 | 11 | 14.6 | 12 | 4.4 | 5 | 20.5 | 16 | 9.9 | 6 | 17 |
| 13 | 4042　東ソー | 71.3 | 21.7 | 14 | 15.1 | 9 | 4.1 | 15 | 21.3 | 13 | 9.1 | 11 | 12 |
| 14 | 3401　帝人 | 71.1 | 22.1 | 12 | 14.1 | 14 | 4.1 | 15 | 21.7 | 12 | 9.1 | 11 | 15 |
| 15 | 3405　クラレ | 69.7 | 21.3 | 15 | 14.0 | 15 | 4.2 | 11 | 20.9 | 14 | 9.3 | 8 | 14 |
| 16 | 4091　日本酸素ホールディングス | 65.2 | 19.8 | 16 | 12.9 | 16 | 4.2 | 11 | 20.0 | 17 | 8.3 | 17 | 19 |
| 17 | 4063　信越化学工業 | 64.8 | 19.8 | 16 | 12.2 | 18 | 4.4 | 5 | 19.9 | 18 | 8.5 | 16 | 16 |
| 18 | 4202　ダイセル | 63.3 | 17.9 | 19 | 12.6 | 17 | 4.0 | 18 | 20.9 | 14 | 7.9 | 18 | 12 |
| 19 | 4114　日本触媒 | 60.4 | 18.4 | 18 | 12.2 | 18 | 3.4 | 20 | 18.8 | 19 | 7.6 | 19 | － |
| 20 | 4118　カネカ | 53.8 | 15.9 | 20 | 10.1 | 20 | 3.5 | 19 | 16.9 | 20 | 7.4 | 20 | 20 |
| | 評価対象企業評価平均点 | 74.08 | 22.88 | | 15.31 | | 4.32 | | 22.18 | | 9.39 | | |

## 2026年度の具体的評価項目および配点（化学・繊維）

**【評価期間：2025年7月～2026年6月】**

| **1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（31点）** | **配点** |
|---|---|
| (1)経営陣のIR姿勢 | |
| ①経営陣が企業価値や株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。<br>【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】 | **11** |
| ②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。<br>【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】 | **7** |
| (2)IR部門の機能、基本スタンス | |
| ①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。<br>【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】 | **9** |
| ②会社にとって都合の悪い情報（不祥事含む）、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。 | **4** |
| **2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（21点）** | **配点** |
| (1)説明会、インタビューにおける開示 | |
| ①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。 | **7** |
| ②インタビューにおける補足説明は十分ですか。 | **7** |
| (2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示 | |
| ・説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。 | **5** |
| (3)四半期情報開示 | |
| ・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。 | **2** |
| **3．フェア・ディスクロージャー（5点）** | **配点** |
| (1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢 | |
| ・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。 | **3** |
| (2)速やかな情報提供 | |
| ・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】 | **2** |
| **4．ESGに関連する情報の開示（30点）** | **配点** |
| ①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか。 | **10** |
| ②社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。 | **10** |
| ③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。 | **10** |
| **5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）** | **配点** |
| ①工場見学、ESG説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。［過去1年間を目安に評価］<br>【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】 | **8** |
| ②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。<br>【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】 | **5** |

## 化学･繊維専門部会委員

| | | |
|---|---|---|
| 部　会　長 | 渡部　貴人 | ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券 |
| 部会長代理 | 山田　幹也 | みずほ証券 |
| | 岡嵜　茂樹 | 野村證券 |
| | 齋藤　達哉 | 三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |
| | 澤砥　正美 | SBI 証券 |
| | 野口　英彦 | ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One |
| | 渡辺　勇仁 | 大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |

## 評価実施アナリスト（28 名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 伊藤　健悟 | QUICK | 西脇　秀敏 | 三菱 UFJ 信託銀行 |
| 今津　拓洋 | ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One | 新田　哲郎 | SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |
| 上迫　和也 | 三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 野口　英彦 | ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One |
| 梅林　秀光 | 大和証券 | 畑澤　巧 | 三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |
| 大谷　優斗 | みずほ証券 | 番　大輝 | 野村證券 |
| 大野　剛 | 丸三証券 | 松川　正子 | 農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |
| 岡嵜　茂樹 | 野村證券 | 南　純一 | りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |
| 岡田　真一 | 三菱 UFJ 信託銀行 | 宮本　剛 | SMBC 日興証券 |
| 河野　孝臣 | 野村證券 | 百田　史哉 | 三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |
| 古西　正幸 | 第一生命保険 | 山田　幹也 | みずほ証券 |
| 齋藤　達哉 | 三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 吉武　祐翔 | 野村證券 |
| 澤砥　正美 | SBI 証券 | 渡辺　勇仁 | 大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ |
| 坪井　暁 | ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 渡邉　亮一 | ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券 |
| 西平　孝 | 岡三証券 | 渡部　貴人 | ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券 |

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。